さんにち NIE ワークシート

山梨日日新聞

年　組　名前：

農業種苗販売などの卸売業 山梨興農（甲府市東下条町、芦沢昇平社長）は、2024年を最後に生産がほぼ終了した甲府市 中道地区特産のトウモロコシ「きみひめ」の産地維持を目指し、種の直販やPR活動をしている。芦沢社長は「中道地区にとって大切な地域ブランド。県内唯一の生産地を守っていきたい」と話している。

24年までは同社が大阪のメーカーから仕入れた種をJAふえふきに卸していた。25年以降は種の取り扱いを終了したJAふえふきと交渉

甲府・中道地区特産のトウモロコシ
きみひめ〝復活〟へ種直販



し、同社と同地区にある風土記の丘農産物直売所で、農家に種を直販している。従来のきみひめ（約350～400㌘）より一回り大きい430㌘程度に育つ種のほか、家庭菜園向きに種200粒入りの商品も用意している。

売り場に並ぶ甲府市中道地区の特産品トウモロコシ「きみひめ」＝甲府・風土記の丘農産物直売所（6月、農継者中道地域協議会提供）

山梨興農「県内唯一の産地守る」

ただJAが種の取り扱いをやめたことで、JAの共選経由で出荷できなくなり生産者が減少。2千粒入りの商品の販売数は24年の約1400袋から、25、26年は240袋に減った。

こうした状況を受け、同社は昨年12月に甲府市内で開いたイベントで、農家や家庭菜園の愛好家らに種を販売していることをPRした。芦沢社長は「きみひめは全国的にも産地が少なく山梨が持つ貴重なブランドだ。地域の財産として消滅させるわけにはいかない」と話した。

〈三枝大悟〉

（2026年10月6日付 山梨日日新聞7面）

問1

トウモロコシの「きみひめ」は、どこの地区の特産品ですか。

問2

農業種苗販売の会社は、きみひめの産地を守るために、どのような活動をしていますか。2つ答えてください。

・---

・---

問3

26年の2千粒入りの商品の販売数は、24年から何袋減少しましたか。

問4

芦沢社長が、きみひめを「消滅させるわけにはいかない」と考えているのはなぜですか。

教育目的以外の無断転載 複製および頒布は禁止します
Copyright © 2026 山梨日日新聞社 THE YAMANASHI NICHINICHI SHIMBUN.